

将来は法人化して地域の農地を引き受けることが目標

新規参入 就農2年目



取材日に納車されました

田邊 真太郎さん (平内町)

就農のきっかけ

出身は、地元、平内町で、陸上自衛隊に12年間勤務していました。就農のきっかけは、帰省するたびに、故郷の水田や畑が荒れ耕作放棄地が増えていく様子を見て、寂しく残念な思いに駆られたこと、故郷で30haの稲作を営んでいる伯父の農作業を手伝っていた際に、高齢となり後継者がいない旨の相談を度々受けていたことから、この地で就農し、いずれは伯父が引き継いだ伝来の農地を受け継ぐことを決意しました。

〇就農にあたっての課題

家族に、自衛隊を退職して農業を始めたいと相談した際に、自営となる農業は自衛隊と比べ、身分や収入が安定しないとのイメージがあることから、すぐには賛同を得ることができず、何度も話し合いを繰り返した結果、最後は家族が応援してくれることとなりました。

農機具や設備などは、自ら取得したトラクター等の他に、幸いにも伯父が所有している機械等を借りての営農活動ができていますが、新規就農者でゼロからスタートする方は、農地の確保だけでなく、農業機械などに必要な資金の確保に苦労すると思います。

〇活用した就農支援策等

農業次世代人材投資資金（経営開始型）

自己紹介

- 〇氏名・・・田邊 真太郎さん（31歳）
- 〇出身地・・・青森県平内町
- 〇経営の概要・・・個人経営 従事者2名
 - ・経営面積・・・水田5.6ha、畑10a
 - ビニールハウス3棟
 - 「産直 紫ぜん」経営
- ・作付品目・・・水稲、ピーマン、ミニトマト
など野菜20品目
- ・販売先・・・JA、「産直 紫ぜん」

就農してからの課題や思い

〇取り組み

主食用米5.6ha、ピーマン4a、ミニトマトほか野菜10a（産直用）を栽培しています。出荷先は、主にJAですが、親戚から譲り受けた店舗「産直 紫ぜん」で、自らが栽培したお米や野菜、手作りのお弁当を販売しています。更に、お客様に平内町の農産物の魅力を知っていただくため、近隣農家の協力を得て、商品ラインナップの充実に取り組んでいます。

〇就農してからの課題

来年、特別栽培米にチャレンジする予定でしたが、まだ、米の栽培でヒエ等の雑草対策がしっかりと取り組めていないため、基本的な防除技術を身につけてからの方が良いと考え、計画を先延ばしすることにしました。

〇課題の解決方法

栽培方法などで困った時は、伯父や近隣農家、農協などからの指導を仰いでいます。現在、伯父の経営面積30haのうち、5.6haを借りていますが、将来は全ての面積を引き継ぐほか、法人化して地域の農地を引き受け、100haの経営規模を目指しています。

就農を考えている方へのメッセージ

就農当初は収入がないため、生活面でとても苦労した。ある程度資金を準備することが必要です。農業は、天候に左右されるため苦労も多いですが、手間をかけた分、収穫できた時の喜びとお客様の笑顔という何ものにも代えがたい喜びがあります。



夜越山森林公園（サボテン園、洋ラン園）入口前にある「産直 紫ぜん」



季節の野菜・手作り弁当などを品揃え！